

「語彙力」とは何か

望月正道

(麗澤大学)

1. 効果的な最初の語彙指導

この論を始めるのに、語彙研究の世界的大家 Paul Nation のホームページにある次のような質問から考えてみたいと思います。単語の意味を最初に学習する場合にもっとも効果的な方法は何かを聞いています。みなさんでしたら、どれを選びますか。

The most effective way of beginning to learn the meaning of a word is by

- A the use of a picture
- B translation into the first language
- C a dictionary definition
- D seeing a word in context

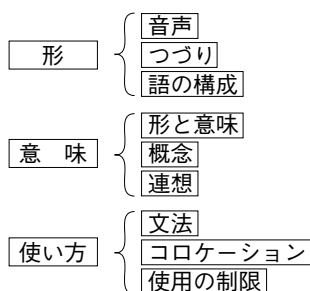
A または D を選んだ人が多いのではないのでしょうか。実物や絵、動作で単語を導入するように指導されてきました。しかし、Nation の示す正解は B です。Nation によれば、まずは、訳で意味を覚えなさいということになります。

2. 単語を知っているとは？

これは予想に反した解答かもしれません。しかし、実は、まず単純に訳で意味を覚えなさいということは、単語の習得とは長く複雑な過程であることの裏返しなのです。Nation は単語を知っていることとは、形、意味、使い方の3つを知っていることだとしています。さらに、それぞれは3つずつに分かれます。形は、音声、つづり、語の構成に、意味は、形と意味、概念、連想に、使い方は、文法、コロケーション、使用の制限というように全部で9つに下位分類されます。さらにその9つについて、受容的に知っている、産出的に知っているという2

つに分けます。したがって、1つの単語を知っていることは、18の下位分類について知っていることになります。

【単語の知識】



→ それぞれは「受容的」および「産出的」な知識に分けられる。

それでは、この語の知識の分類について具体例をあげて考えてみましょう。train という単語を取りあげます。まず、形の3つの下位分類の1つである、この単語の「音声」を受容的に知っているとは、[trein] という音を聞いて、train という単語であるとわかることです。「音声」を産出的に知っているとは、[trein] と発音できることです。「音声」と同様に、「つづり」を受容的に知っているとは、train というつづりを見て、train という単語であることがわかることであり、産出的に知っているとは、train とつづることができることです。形の3つ目の下位分類である「語の構成」については、train の場合、語幹のみで構成されている語であるとわかるということになります。語幹に接頭辞や接尾辞がついた語の場合、それを見てどのように語が構成されているかがわかれば、受容的に知っていることになります。語を組み立てて使えれば、産出的に知っていることになります。

次に、意味の3つの下位分類について考えてみましょう。「形と意味」を受容的に知っているとは、train という形（音声またはつづり）が与えられた場合、「列車，訓練する」のような意味が頭に浮かんでくることを表します。逆に、この意味を表現したいときに、音声またはつづりで train という語を記憶から引き出せれば、産出的に知っていることとなります。「概念」とは、train という単語がもつ抽象的な考えで、その範疇に当てはまる対象物を知っていることとなります。たとえば、JR や私鉄の列車は train の範疇の成員であるが、路面電車は成員ではないと知っていることをさします。「連想」とは、train という単語から英語母語話者が思い浮かべる単語を知っていることを表します。たとえば、station, passenger, arrive, delay, seat などあげられます。

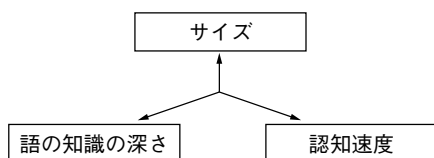
Nation の語を知っていることの3つ目の分類である使い方の下位分類について考えます。「文法」を知っているとは、train は「列車」という意味では可算名詞である、「訓練する」という意味では自動詞・他動詞であると知っていることを表します。「コロケーション」は、local train, passenger train, take a train, train children など、train という単語と一緒に使う語を知っていることをさします。「使用の制限」とは、単語をどのような状況で使う語であるかを知っていることを表します。train という単語の「使用の制限」についての知識がある人は、これはアメリカでもイギリスでも地域の別なく広く使われる語であること、肯定的・否定的な意味合いのない中立的な語であることなどを知っていることを表します。

このように細かく18に下位分類した側面を知っているかどうかとなると英語母語話者でも単語によって大きく異なります。日本語母語話者でも「薔薇」という漢字を読んでも書ける人は少ないでしょう。単語を習得するということは、このような側面についての知識を少しずつ増やしていくことです。いきなりすべての知識を身につけることは不可能です。まず語の形と意味の結びつきができ、それを核としてその他の知識が少しずつついで加わって語彙習得が進んでいきます。したがって、Nation が訳を

使って意味を覚えるのがもっとも効果的であるというのは、そのあとに続く長くより複雑な語彙習得過程を考慮してのことです。

3. 語彙力のある人とは？

それでは語彙力のある人とはどのような人でしょうか。まず、たくさん単語を知っている人は語彙力があると考えられます。refectory（食堂）とか erythrocyte（赤血球）のような頻度の低い単語までたくさん知っている人は語彙力があるといえるでしょう。また、1つの単語について詳しく知っている人も語彙力があるといえます。たとえば、bug という単語は「虫」という意味だけでなく、「(コンピュータ・システムやプログラムの) 欠陥」, 「盗聴器」, 「熱中，熱狂」という意味があることを知っている人は、深い語彙知識を持っているといえます。このような人は、bug と insect だけでなく、computer system, spy, interest などの単語を結びつけることができるでしょう。他の単語とより多く結びつけることができる人は、ある語から連想する単語が多くなり、読解、聴解での理解が進み、スピーチやライティングの運用がすみやかになると考えられます。さらに、単語をすばやく使える人も語彙力があるといえます。英語母語話者が1つの単語を発音するには約0.4秒かかり、逆にある単語を聞いてそれを認知するには約半分の0.2秒しかかからないといわれています。私たち非英語母語話者はそのように速く認知できる単語もあれば、聞き取ってしばらくして意味がわかる単語もあります。同様に、言いたい単語をすぐ口に出せる人も認知速度が速いといえます。たとえば、「爬虫類」と言いたいときに、すぐ reptile と頭に浮かぶ人と、しばらく考えないと出てこない人では、前者のほうが語彙力があるといえます。このように、語彙力とは3つの側面で考慮すべきものだとわかります。すなわち、どれくらいたくさんの単語を知っているかというサイズの側面、1つの単語をどれくらいよく知っているかという深さの側面、どれくらい速くある単語を認知できるかという認知速度の側面です。



この3つの側面において語彙力をつけていくことが語彙指導の課題となるわけです。

それではこの3つの側面の何を重視すべきなのでしょう。語彙研究のもうひとりの世界的権威 Paul Meara によれば、語彙サイズが5000語以下の場合、語の知識の深さはそれほど重要ではないとしています。1つの単語について詳しく知っているよりも、意味だけであってもより多くの単語を知っているほうが重要であるということです。中学段階では5000語を習得する生徒はほとんどいませんから、できるだけたくさんの単語を学ばせることを心がけることになります。

4. 語彙指導の方法

それではできるだけたくさんの単語をどう指導したらよいのでしょうか。Nation は訳で教えるのが効果的だと述べています。これは語彙習得研究によっても支持されています。単語を訳語とともにリストで覚えさせた場合と文脈から推測させて覚えさせた場合では、前者のほうがよりよく覚えていることが報告されています (Prince, 1996)。しかし、市販の単語集を覚えても読解やリスニングで使えるようになったという気はしません。これはせっかく単語集で覚えても、その単語を読解やその他の技能で使う機会がないために、使えるようになる前に忘れてしまうからです。そうならないためには、読解や他の技能で使う予定のある単語を最初に教えて覚えさせてしまうことです。訳とともに覚えた単語が読解の中で出てくれば、生徒は学習したことを思い出し、どういう意味だったか思い出そうとしましょう。この記憶から再生しようとする努力が記憶の糸を太くして、単語がより強く記憶に残るようになります。そして、訳だけで覚えていた単語が文中で使われ、他の単語との結びつきができるようになります。

このような前提に基づくと、このあとの各論で先

生方が紹介される語彙指導法に加え、筆者が最近提案させてもらっている新たな指導法も考えられます。それを紹介させていただきます。それは、教科書1冊で新出語として使われている語彙すべてを4月の最初に教えてしまうというものです。中学1年生では無理ですが、2年生、3年生ならば、1年間で学習する語彙、約300語にすべて訳語をつけたものをプリントにして配ります。1時間で50語ずつ発音練習、つづりを読む練習、書く練習、個人で覚える練習、英語から日本語を言う練習、日本語から英語を言う練習のように、1時間で覚えるように練習します。1時間の終わりに50語のテストをします。このような方法で、6時間かけて300語を4月の最初に教えてしまいます。この時点で300語を覚えさせてしまうと、残りの1年間の授業は語彙に関して言えば、形と意味のつながりの復習、意味以外の側面の習得のための練習、さらに認知速度を速める練習になります。ある課のパートをオーラルイントロダクションで導入するときには、生徒は知らない単語はありません。先生の英語の中で、覚えた単語が使われているのを聞くことにより、単語がリスニングに使えるようになります。教科書を読むことにより、単語をリーディングに使えるようになります。英問英答で答えることを求められればスピーキングで使えるようになります。授業のすべての活動で、一度習って意味を知っている単語を実際に使う練習をしていくことになります。これらの活動を通して、最初は単語を聞いたり、教科書で見たりしてもなかなか意味が浮かんでこなかったのが、即座に認知できるようになります。このように実際に使う練習をすることで、語彙をよりよく定着させることができます。

もちろん1度教えたからといって生徒はすべて覚えるわけではありません。4月に300語教えたからといってすぐに忘れてしまうでしょう。教科書を使っただけの授業でも、習ったけれど意味を思い出せないという単語が多いでしょう。しかし、それでよいのです。1度にすべて覚えられる方法はありません。繰り返し単語に触れることによって少しずつ語の知識が増えていくのです。300語のテストは1学期に1度くらいの間隔で再テストするのがよい

でしょう。

5. 出会う回数と習得

このように最初に訳で覚えさせた単語をオーラルイントロダクションや教科書の中で復習させ、さらに、テストで定着を確認していくことにより、同じ単語に何度も出会わせることができます。この繰り返しの効果は、実証研究によって支持されています。九州大学のStuart Webbは、繰り返しの回数が単語の習得に与える影響について調査しています。1つの単語に対して与える例文の数を1, 3, 7, 10と4つに分け、4つの大学生のグループに10語の単語を学習させました。その後、単語を聞いてつづりを書く、つづりを見せて意味を書く、つづりを見せて文を作る、つづりを見せて連想語を書く、つづりを見せて統語的に一緒に使う語を書くという5つの産出的テストとそれらに選択肢を与えて解答を選ばせる受容的テストの10のテストを実施しました。その結果、いずれのテストにおいても例文数が多いグループほどよい得点をあげていることがわかりました。すなわち、つづり、意味、連想、文法、コロケーションという語の知識の深さの構成要素は、単語に触れる回数が多いほどより多く習得されることを示したわけです。

この研究は、繰り返し単語に触れさせることの有効性を示す証拠と考えられます。意味がわかった単語をさまざまな活動で何度も受容的にあるいは産出的に使わせることは、語の知識の深さを深めていき、その語をよりよく定着させることにつながることを示しているからです。

6. 中学生が習得すべき語彙

最後に、中学生が習得すべき語彙について考えてみましょう。学習指導要領は中学3年間で900語を学習することを求めています。それらは、特定の100語以外は具体的に指定されていません。100語以外は教科書執筆者が教科書作成に必要な語彙を任意に選んでいます。したがって、教科書ごとに使われている語彙は異なっています。では、どのような語彙を教えたらよいのでしょうか。

コーパス言語学の発達で、どのような語彙がよく使われるかについて詳しくわかるようになってきま

した。書きことばでは、もっともよく使われる2000語でどのような文書でも約80%をカバーできることがわかっています。このような語彙は英語を使用する上でたいへん重要なもので、できるだけ早い段階から学習すべきものです。使用している教科書の語彙を教えることは重要ですが、頻度の観点からもっともよく使う2000語に入る語なのかどうか検討してみることも大切です。

コーパスの頻度情報に基づく語彙表としては、北海道大学英語語彙表、大学英語教育学会基本語リスト(JACET8000)などがよく知られています。どちらもウェブ上で公開されているので、もっとも頻度の高い2000語までをチェックしてみるとよいでしょう。また、東京都中学校英語教育研究会・研究部は、現行の中学校英語教科書で使われている語彙を分析し、ウェブ上で公開しています。1種類の教科書でしか使われていない単語からすべての教科書で使われている単語まで分類されているので、重要な単語かどうか見極めるのに役立つでしょう。

7. おわりに

単語はなかなか覚えられないものです。覚えたりでも忘れてしまいます。何度も覚えなおさなければなりません。語呂あわせは記憶に残りやすい方法ですが、よい語呂あわせは簡単に思いつくわけではありません。結局、簡単に楽に単語を覚える方法はないのです。単語を覚えられないと嘆く生徒は、「先生も覚えられなかった。忘れたらまた覚えればよいのだ」と励ましてやりたいものです。そして、生徒が少しでも単語を覚えてよかったと思う授業を心がけたいものです。

【参考文献】

Prince, P. (1996) 'Second language vocabulary learning: The role of context versus translations as a function of proficiency', *Modern Language Journal*, 80, 478-493.